

第2回おおさかスマートエネルギー協議会 議事概要

日 時：平成 27 年 2 月 13 日（金）午前 10 時～正午

場 所：大阪府咲洲庁舎 23 階 中会議室

1. 電気料金の再値上げについて

- ・関西電力より、電力料金の再値上げに対する構成員からの質問・意見に対して回答。
- ・大阪商工会議所より、電力料金の再値上げが企業経営に及ぼす影響に関する調査結果を紹介。
- ・事務局より、電気料金の再値上げに関する国や関西電力への申し入れを紹介。

【主な質疑等】

- ・東京電力の資材調達の競争発注比率の平成 27 年度目標 60%に対し、関西電力は 30% だが、その違いは何か。
⇒（関西電力）
 - ・東電の内情をよく知りえていないが、4割強は競争には馴染み難いと考えており、理論上の数字として6割というのを出されているのかもしれない。
 - ・平成 27 年度 30%がゴールではなく、順次ステップアップしていく。
- ・石油価格が下落しているが、燃料費調整を考慮すると、実際の料金はどうなるのか。
⇒（関西電力）
 - ・足元の市況の状況では、原油価格は下がっているが、LNG 通関価格はそれほど下がっていないので、4月にお返しできるところまでは行き着いていない。
 - ・また、燃料構成によって燃料費調整は決まってくるので、直接的に下向きの傾向がリンクしない。
- ・原子力が動かず、原油や LNG を高めで買いに行ったという記事が出ているが、その影響が反映されているのか。バーゲニングパワー（交渉力）を上げられるための取組みは。
⇒（関西電力）
 - ・石炭、LNG含めて共同調達をするスキームはあり、しっかりと継続していく。
 - ・LNG は長期契約によりリスクを分散させて通関統計よりも安い価格で調達している。
 - ・他電力から購入する電気については、石油火力や揚水発電などの高い単価の電気を購入しているという実態はある。
- ・今回の値上げは家計に大きく影響を与えるという意味では多くの消費者は快く思っていない。効率化が前回査定のところに届いていない、それが事実としてあって、そこも含めて利用者側に転化されているという印象を持っている。
- ・消費者は関西電力からしか電気を買えない。経営をお任せしている。本当に消費者一人ひとりの顔を思い浮かべて経営をされているのか、すごく不信感がある。経営陣が変わらない。原発に対しても何も変わらない。これでみんな納得するのかなと。
- ・再値上げ申請が決まってから持ってくるのではなくて、もう少し早く一緒に相談が出来るという場があっても良かった。協議会の目指すべきところは値上げが反対というところから一歩進んで、事業者や私達市民、自治体に何ができるのだろうというところ、そ

んな話も是非続けてできたらと思う。

- 我々の調査では、値上げの影響を少しでも抑えるために、早く再稼動して欲しいという意見が一番多い。11月というターゲットに向けて原発を確実に動かすように努力を一緒にしていくということもこの中で考えていけるのであれば、是非取り上げて頂きたい。

2. 今冬の電力需給について

- 関西電力より、今冬の電力需給見通しの説明と節電のお願い。
- 事務局より、関西広域連合における節電取組みの説明と節電のお願い。

3. 部門別会議の報告

- 事務局より、各部門別会議（事業者・家庭・市町村）の結果について報告。

4. その他

- 来年度の取組み等について意見交換。

【主な質疑等】

- 関西電力として、電気料金の再値上げや再エネの系統接続の問題、原発の安全対策など、皆様に関心があり、疑問や不安があることがテーマとして取り上げられれば、しっかりと説明させていただきたい。